

2018年9月20日  
公益財団法人イオン環境財団  
国際連合環境計画 生物多様性条約事務局

## 「The MIDORI Prize for Biodiversity 2018」(第5回生物多様性みどり賞)受賞者決定

－10月31日(水)授賞式・受賞者フォーラムを開催－

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下、当財団)と国際連合環境計画 生物多様性条約事務局(以下、生物多様性条約事務局)は、厳正な審査のもと「The MIDORI Prize for Biodiversity 2018(第5回生物多様性みどり賞)」の受賞者3名を決定しました。

### 【受賞者】

キャシー・マッキノン氏 Kathy MacKinnon (イギリス)  
国際自然保護連合(IUCN)世界保護地域委員会(WCPA)議長

アサド・セルハル氏 Assad Serhal (レバノン)  
レバノン自然保護協会(SPNL)事務局長

アブドゥル・ハミド・ザクリ氏 Abdul Hamid Zakri (マレーシア)  
マレーシア先端技術産官機構 共同議長、前マレーシア首相付科学顧問

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋において開催された2010年、当財団は設立20周年を記念し、「The MIDORI Prize for Biodiversity(生物多様性みどり賞)」を創設しました。本賞は、生物多様性の保全と持続可能な利用推進に向けてグローバルなステージで顕著な環境活動に取り組んでいる個人を顕彰する国際賞で、第2回(2012年)からは、生物多様性条約事務局との共催により、隔年で実施しています。

第5回となる本年は、51カ国129名の候補者の中から、2010年に生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された「愛知ターゲット」や、2011年に開始した「国連生物多様性の10年」の推進において大きく貢献された3名への授賞を決定しました。各受賞者には、副賞(10万USドル)が贈られます。また、10月31日(水)に、受賞者を日本へ招聘し、授賞式ならびに受賞者フォーラムを開催します。

当財団と生物多様性条約事務局は本賞を通じて積極的な環境活動を支援するほか、これからも様々な活動を通じて生物多様性の保全と持続可能な利用の促進のために取り組んでまいります。

### 【授賞式・受賞者フォーラム】

- 日時 2018年10月31日(水) 14:00~18:30
- 会場 パレスホテル東京(東京都千代田区丸の内1-1-1)
- スケジュール 授賞式 14:00~15:00  
受賞者フォーラム 15:00~17:15  
レセプション 17:30~18:30
- 主な出席者 環境省 事務次官 森本 英香 様  
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田 卓也

【The MIDORI Prize for Biodiversity 2018 受賞者について】

キャシー・マッキノン氏 Kathy MacKinnon (イギリス)  
国際自然保護連合 世界保護地域委員会 (IUCN/WCPA) 議長



フィールド生物学者としてインドネシアで熱帯生態学研究に従事した後、世界銀行の主席生物多様性専門家として、アフリカ、アジア、中南米など数多くの途上国における生物多様性の保全と自然資源管理を強化するプロジェクトを推し進めた。幅広いステークホルダーと協力し、開発プログラムにおける生物多様性の主流化、保全地区周辺コミュニティで暮らす人々の持続可能な生計の確保などにも注力してきた。現在は、IUCN/WCPA の議長に就き各国における「愛知ターゲット」の達成支援ためにリーダーシップを発揮している。

アサド・セルハル氏 Assad Serhal (レバノン)  
レバノン自然保護協会 (SPNL) 事務局長



レバノン内戦下、母国の自然遺産を守ろうと米国から帰国し、「レバノン自然保護協会 (SPNL)」を設立した。同国で保護区の設定をする中で、中東地域では欧米の自然の保護と管理のモデルは適合しないと考え、伝統的な地域主体の保全システムである HIMA (アラビア語で「保護地域」) の復活を提唱。科学的、社会的研究によりこれを強化した。これまでに 21 の HIMA を設定し、野生生物の生息地、放牧地、水資源の保全とともに、HIMA で暮らす人々の持続可能な生計をもたらし、地域社会に力を与えている。

アブドゥル・ハミド・ザクリ氏 Abdul Hamid Zakri (マレーシア)  
マレーシア先端技術産官機構 共同議長  
前マレーシア首相付科学顧問



世界の生物多様性と生態系サービスの観測・分析・評価に長年にわたって貢献するとともに、自然環境の保護や修復を促し、持続可能な環境保全を推進してきた。「ミレニアム生態系評価 (MA)」の共同議長及び「生態系サービスに関する政府間プラットフォーム (IPBES)」の創設議長を務め、MA や IPBES に参画する世界的リーダーの生物多様性に対する認識を高める上で重要な役割を果たした。また「SATOYAMA イニシアティブ」及び「日本の里山・里海評価 (JSSA)」の推進にも貢献した。

## 【The MIDORI Prize for Biodiversity 2018（第5回 生物多様性みどり賞）について】

### 1. 実施体制

主催：公益財団法人イオン環境財団  
共催：生物多様性条約事務局  
後援：環境省

### 2. 選考

#### (1) 審査基準

- ・国際的な貢献
- ・生物多様性の保全と持続可能な利用に対する貢献
- ・社会的な貢献
- ・長期的な視点と継続性
- ・創造性と新規性
- ・市民性と総合性
- ・実効性と波及力

#### (2) 審査委員会（敬称略、共催者代表以下アルファベット順）

審査委員長 岡田 卓也（公益財団法人イオン環境財団 理事長）  
審査委員 パスカ・パーマー（生物多様性条約 事務局長、The MIDORI Prize 共催者代表）  
岩槻 邦男（東京大学 名誉教授）  
黒田 大三郎（公益財団法人地球環境戦略研究機関 シニアフェロー）  
あん・まくどなど（上智大学大学院 地球環境学研究科教授）  
涌井 史郎（東京都市大学 特別教授、国連生物多様性の10年日本委員会 委員長代理）  
ハムダッラー・ハフェッツ・ゼダン（生物多様性条約 COP14 準備委員会 議長）

### ご参考

#### 【The MIDORI Prize for Biodiversity 歴代受賞者】

##### 《第1回受賞者（2010年）》

ジャン・ルミール氏	生物学者、探検家、映画製作者（カナダ）
グレッチェン・C・デイリー氏	スタンフォード大学 教授（アメリカ）
エミル・サリム氏	インドネシア大統領諮問会議 議長、元インドネシア人口・環境大臣（インドネシア）
（国際生物多様性年）特別賞 アンゲラ・メルケル氏	ドイツ連邦共和国首相（ドイツ）

##### 《第2回受賞者（2012年）》

ファン・カルロス・カスティージャ氏	チリ カトリカ大学 教授（チリ）
ロドリゴ・ガメス＝ロボ氏	コスタリカ生物多様性研究所 代表（コスタリカ）
ボ・クイ氏	ベトナム国家大学ハノイ校 自然資源管理・環境研究センター名誉総長（ベトナム）

《第3回受賞者（2014年）》

カマル・バワ氏

アショーカ生態学環境研究トラスト 代表、  
マサチューセッツ大学 ボストン校 特別教授（インド）  
ガーナ生物多様性委員会 議長（ガーナ）  
ビクーニャ/ラクダと環境 学際研究プロジェクト 代表  
アルゼンチン学術研究会議 主席研究員（アルゼンチン）

アルフレッド・オテング=イエボア氏  
ピビアナ・ヴィラ氏

《第4回受賞者（2016年）》

アルフォンソ・アギーレ=ムーニョス氏

島嶼（とうしょ）生態系保全グループ事務局長  
（メキシコ）

ユーリ・ダーマン氏  
ヴァンダナ・シヴァ氏

世界自然保護基金ロシア アムール支所所長（ロシア）  
ナウダーニャ 創設者・代表（インド）

【公益財団法人イオン環境財団について】

公益財団法人イオン環境財団は、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念に基づき、1990年に設立されました。設立以来、環境 NGO/NPO への助成や、国内外での植樹活動、また、生物多様性の保全と持続可能な利用を促進するために、顕彰事業や環境分野での人材育成にも取り組んでいます。2009年には国内賞「生物多様性日本アワード」を創設。同アワードと The MIDORI Prize を隔年で交互に実施しています。2017年には、日本ユネスコエコパークネットワークと連携協定を締結し、生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）の保全発展のため新たな取り組みを始めました。私たちの緑の地球を次代に引き継ぐため、当財団は、各事業を通じ、こうした活動を継続的に実施するとともに、生物多様性問題に取り組んでまいります。

公益財団法人イオン環境財団ホームページ：<http://www.aeon.info/ef/>

【生物多様性条約について】

生物多様性条約（正式名称：生物の多様性に関する条約）は、1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された国連環境開発会議（地球サミット）で採択された国際条約の1つで、翌1993年12月に発効しました。同条約は、生物多様性の保全、生物多様性とその構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生じる利益の公正な配分を目的としています。現在までに196の国と地域が同条約を締結しており、全世界的に加盟されている条約です。

生物多様性条約事務局ホームページ：[www.cbd.int/](http://www.cbd.int/)